土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　査　名　国際拠点港湾　広島港　江波地区　港湾海岸保全施設整備事業に伴う測量地質調査業務委託

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象　港湾 護岸

ボーリング名	R5-No.10	**調査位置**	広島県広島市中区江波沖地内			**北緯**	34° 21′ 16.26″
発注機関	広島県広島港湾振興事務所			**調査期間**	令和5年 12月 14日 ～ 令和5年 12月 22日	**東経**	132° 25′ 58.71″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者**	**ボーリング責任者**
孔口標高	T.P. 2.76m	**角度**	180°　上 90° 下　0°　0°	**方位**	北 0°　270° 西　90° 東　180° 南　0°	**地盤勾配**	水平 0°　鉛直 90°　0°
総削孔長	38.00m					**使用機種**	**試錐機**：東邦地下工機　D1-B48型 **エンジン**：ヤンマーディーゼル　NFD-13型　**ポンプ**：東邦地下工機　BG-3C型

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事
	1.86	0.90		コンクリート	Rm	灰～暗灰				5cm厚アスファルト舗装の下に10cm厚の砕石。以深は20cm厚の2層のコンクリートに挟まれて礫混じり砂が分布する。
1～4	-2.04	4.80		シルト混じり砂	SCs S-Cs SCs	淡褐灰 灰～暗灰	rd2 rd1			細砂主体の細粒分の少ない砂。深度3.4m以浅は褐色を帯びた色調で，中砂が混じる。深度1m付近には直径3cmの角礫がわずかに混じる。深度4m付近は粘性土の薄層を挟み，直径1～2cmのコンクリートからなる角礫が混じる。
5	-2.84	5.60		砂質シルト	CsS	暗灰		rc2		軟らかい粘性土と細砂主体の砂が互層をなし，細粒分がやや優勢である。腐植物が混入する。
6～13	-11.24	14.00		シルト混じり砂	S-CsG S-Cs SCs	暗灰	rd2 rd3		完新世	細砂・中砂主体の細粒分の少ない砂。全体的に貝殺片がごくわずかに混じり，深度5～6mではやや多い。層相は概ね均質であるが粒度組成に若干の変化が見られ，深度6m付近は粗砂が混じり，深度9～12mでは細砂が主体をなす。
14～15	-12.84	15.60		シルト質砂	SCs	暗灰	rd3			微細砂・細砂主体の砂と軟らかい粘性土（rc2）がと互層をなし，砂分優勢である。
16～17	-14.74	17.50		砂質シルト	CHS	暗灰		rc2		細砂を含む粘性土。試料の含水比は中位で軟らかく，部分的に硬さが増す（rc3）。表面光沢は鈍い。貝殺片がごくわずかに混じる。
18～24				シルト	CH	暗灰		rc2		層相の均質な粘性土。試料の含水比は中位ないし高く，指に力を込めると大きく変形する硬さであり，表面は弱い光沢を持つ。

孔内水位／測定月日：12/25 2.60；12/26 2.80

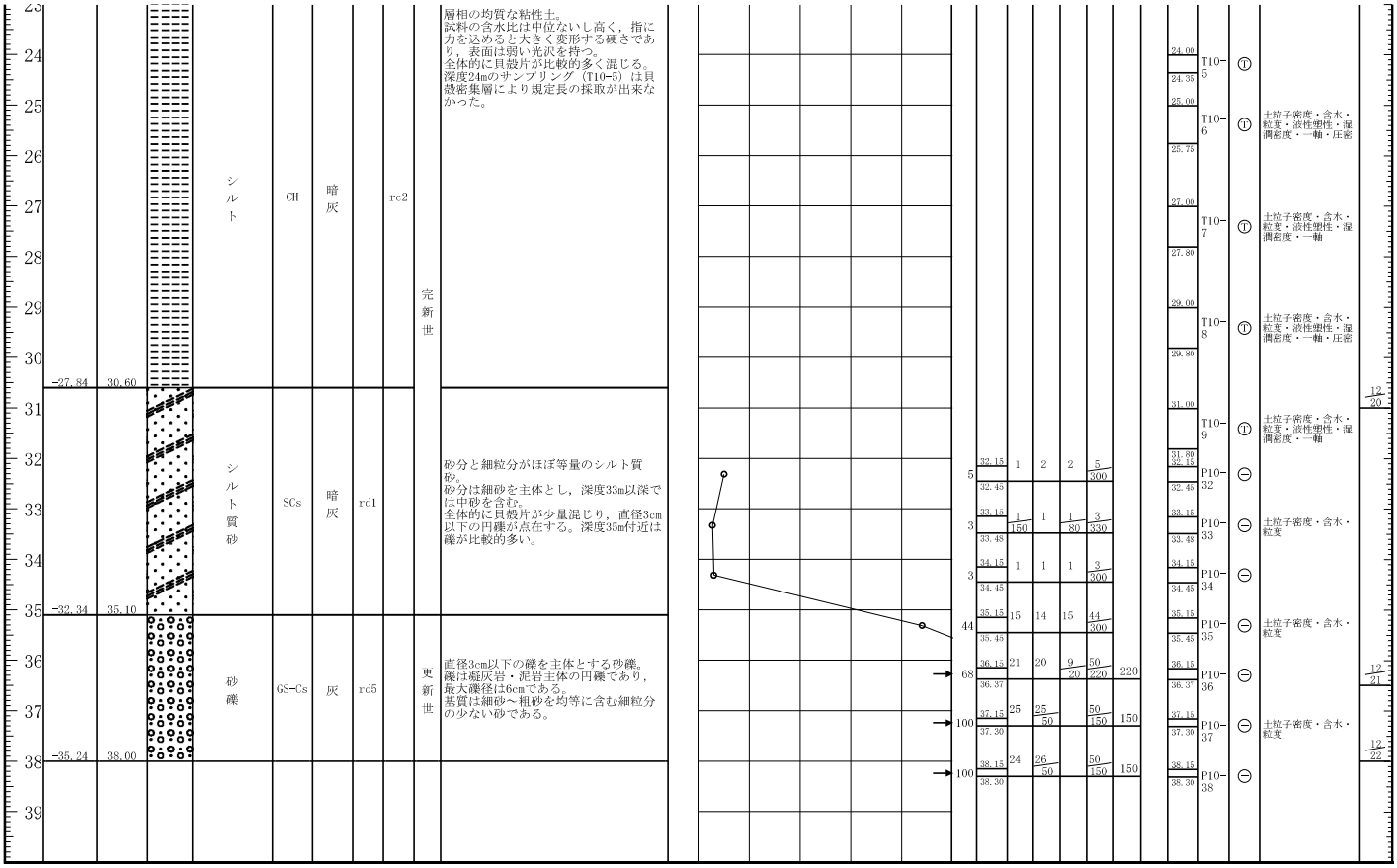
標準貫入試験

深度－N値図（0 10 20 30 40 50）

N値	深度 (m)	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
10	1.15～1.45	4	3	3	10/300		
11	2.15～2.45	3	4	4	11/300		
9	3.15～3.45	3	3	3	9/300		
2	4.15～4.50	1/140	1/210		2/350		
4	5.15～5.45	1/120	1/80	2	4/300		
9	6.15～6.45	3	3	3	9/300		
22	7.15～7.45	8	7	7	22/300		
18	8.15～8.45	7	6	5	18/300		
20	9.15～9.45	7	6	7	20/300		
10	10.15～10.45	3	3	4	10/300		
11	11.15～11.45	4	4	3	11/300		
11	12.15～12.45	3	4	4	11/300		
13	13.15～13.45	3	4	6	13/300		
14	14.15～14.45	4	5	5	14/300		
8	15.15～15.45	2	3	3	8/300		

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	原位置試験	削孔月日
1.15～1.45	P10-1	⊖	土粒子密度・含水・粒度		
2.15～2.45	P10-2	⊖	土粒子密度・含水・粒度		
3.15～3.45	P10-3	⊖	土粒子密度・含水・粒度		
4.15～4.50	P10-4	⊖	土粒子密度・含水・粒度		
5.15～5.45	P10-5	⊖	土粒子密度・含水・粒度		
6.15～6.45	P10-6	⊖	土粒子密度・含水・粒度		
7.15～7.45	P10-7	⊖	土粒子密度・含水・粒度		12/15
8.15～8.45	P10-8	⊖	土粒子密度・含水・粒度		
9.15～9.45	P10-9	⊖	土粒子密度・含水・粒度		
10.15～10.45	P10-10	⊖	土粒子密度・含水・粒度		12/18
11.15～11.45	P10-11	⊖	土粒子密度・含水・粒度		
12.15～12.45	P10-12	⊖	土粒子密度・含水・粒度		
13.15～13.45	P10-13	⊖	土粒子密度・含水・粒度		
14.15～14.45	P10-14	⊖	土粒子密度・含水・粒度		
15.15～15.45	P10-15	⊖	土粒子密度・含水・粒度		
16.00～16.80	T10-1	Ⓣ	土粒子密度・含水・粒度・液性塑性・湿潤密度・一軸・圧密		
18.00～18.80	T10-2	Ⓣ	土粒子密度・含水・粒度・液性塑性・湿潤密度・一軸		
20.00～20.80	T10-3	Ⓣ	土粒子密度・含水・粒度・液性塑性・湿潤密度・一軸・圧密		
22.00～22.80	T10-4	Ⓣ	土粒子密度・含水・粒度・液性塑性・湿潤密度・一軸		12/19


23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
-27.84
30.60
-32.34
35.10
-35.24
38.00
シルト
CH
暗灰
rc2
完新世
層相の均質な粘性土。
試料の含水比は中位ないし高く，指に力を込めると大きく変形する硬さであり，表面は弱い光沢を持つ。
全体的に貝殻片が比較的多く混じる。
深度24mのサンプリング（T10-5）は貝殻密集層により規定長の採取が出来なかった。
シルト質砂
SCs
暗灰
rd1
砂分と細粒分がほぼ等量のシルト質砂。
砂分は細砂を主体とし，深度33m以深では中砂を含む。
全体的に貝殻片が少量混じり，直径3cm以下の円礫が点在する。深度35m付近は礫が比較的多い。
砂礫
GS-Cs
灰
rd5
更新世
直径3cm以下の礫を主体とする砂礫。
礫は凝灰岩・泥岩主体の円礫であり，最大礫径は6cmである。
基質は細砂～粗砂を均等に含む細粒分の少ない砂である。
5
32.15
32.45
1
2
2
5
300
3
33.15
33.45
1
150
1
1
80
3
330
3
34.15
34.45
1
1
1
3
300
44
35.15
35.45
15
14
15
44
300
68
36.15
36.37
21
20
9
20
50
220
220
100
37.15
37.30
25
25
50
50
150
150
100
38.15
38.30
24
26
50
50
150
150
24.00
24.35
T10-5
25.00
25.75
T10-6
土粒子密度・含水・粒度・液性塑性・湿潤密度・一軸・圧密
27.00
27.80
T10-7
土粒子密度・含水・粒度・液性塑性・湿潤密度・一軸
29.00
29.80
T10-8
土粒子密度・含水・粒度・液性塑性・湿潤密度・一軸・圧密
31.00
31.80
T10-9
土粒子密度・含水・粒度・液性塑性・湿潤密度・一軸
12
20
32.15
32.45
P10-32
33.15
33.45
P10-33
土粒子密度・含水・粒度
34.15
34.45
P10-34
35.15
35.45
P10-35
土粒子密度・含水・粒度
36.15
36.37
P10-36
12
21
37.15
37.30
P10-37
土粒子密度・含水・粒度
12
22
38.15
38.30
P10-38